

## むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 山本 知也 殿

隊員氏名 大崎 祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2023年7月分】

### 1. 実施した活動の概要・状況

7月前半は脇野沢小学校の景観学習会に参加したり、脇野沢でのシュノーケル事業の開拓のためにシュノーケルをしたりと脇野沢メインの活動が多かった。後半はまりんびーちでのATVのアマモ事業に参加したり、県民局の事業のグリーンジャンボリー集会の手伝いをしたりと川内での活動が多かった。また、中旬から脇野沢での耳づりの出荷が始まり、毎朝漁の手伝いをしてから出勤した。月末にはむつ青年会議所のサマーウォーターフェスの手伝いと、まさかりレガッタの参加をした。

地域おこしとしての活動が多く、とても充実した1ヶ月であったが、その分デスクワークが溜まったり、体験館の水槽の管理がおろそかになる部分が見られた。

#### （主な活動）

#### ◇7月14日（金） 脇野沢小学校景観学習会のお手伝い・見学

6月26日に第1回景観学習会が開催され、脇野沢の村内を2つの班に分かれて歩き回り、好きな景観、気になる景観、直したい景観等を子供たちが撮影してまわった。それをもとに直したい景観とどう直すかを子供たちが考えた結果、脇野沢漁港付近のフェリー発着所からのルート上にあるホタテのモニュメント（ストリートギャラリー）の色を塗りなおすことになった。

今回、第2回として色の塗りなおしを行った。大きなホタテが何枚も並べられており、その1枚1枚に当時の子供たちが脇野沢の好きな景観を描いており、その絵が時代とともにボロボロになっている景観に子供たちが着目し、塗りなおすことで景観を良くしようというものであった。

実際に作業をしている中で、脇野沢庁舎の方々がテントを設営してサポートしてくれたり、漁協の方々が水を差し入れてくれたり、地域の方がお金を寄付してくれたり、脇野沢の温かさを感じる場面が多かった。また、子どもたちが脇野沢を良くしたいと思って自分たちで考えて行動している点、それを授業としてサポートできる学校の対応にもものすごく感銘を受けた。今の時代になかなか無い学校の在り方であると感じた。

今回、第1回、第2回と参加したが、子どもたちの主体性、行動力が個人的に印象に残っていると同時に、自分も地域おこしの活動として見習わなければいけない部分であるなど感じた。子供たちに負けないように今後の活動を行っていききたい。



## ◇7月22日(土) ATV海プロ事業「あおもりアマモ調査団」手伝い

ATVの事業で海と日本プロジェクトの協力のもと、「あおもりアマモ調査団」が2日にわたり開催された。内容としては、1日目に体験館を会場として、アマモの研究をされている志田様の講義があり、事前に仕掛けたアマモの生き物調査を行い、昼食ののち、青森工業高校の生徒らによる活動の報告と、実際にアマモをカヤックに乗って見るという内容であった。2日目には脇野沢漁港へ移動し年間を通して獲れる魚の講義ののち、ホタテのほやしき体験をし、むつ中央公民館に移動し海軍コロッケづくりをし、商品開発をするというものであった。

この事業ではもともと、アマモの水槽を事前に作成しカメラで1ヶ月ほど公開するというものがあり、その水槽の作成、管理を任されていた。1ヶ月ほどカメラで流すということで、アマモを水槽内で生存させるにはどうすれば良いのかを調べ、水槽づくりから試行錯誤を重ねていた。海の表面の砂だけでなく、地中の砂を入れたり、ライブサンドを入れたり、水温、水流、光量、水槽内の生物に至るまで試行錯誤を重ねた。結果的にはカメラで流すこともなく、水槽に触れることもなかったわけだが、それでも水槽内の生き物に興味を持つ子供が多かったので設置して良かったなと感じた。

今回の経験から、自分の事業の際に気を付けなければいけないことを改めて学ぶことができた。また、水槽づくりにおける「見た目だけでなく水質も良くするやり方」があることを学ぶことができた。この経験を日常の水槽管理に活かし、水槽の充実を図っていきたいと考える。



## 2. 翌月の活動予定

8月は7月後半の猛暑日が続くと予想される。まりんびーちでの海の家も始まるため、熱中症に気を付けて活動していきたい。その環境の中で脇野沢での早朝の漁師の手伝いと日常業務を両立させるために、時間の使い方と計画を立てた行動に力を入れていきたい。

8月 1日 海の子アカデミーでの講師(～2日)

8月 5日 脇野沢小中学校ねぶた祭、海の家営業(～20日の土日)

8月14日 ヤマメのつかみどり

8月21日 脇野沢小中学校ミョウガ収穫

8月22日 インターンシップ開始